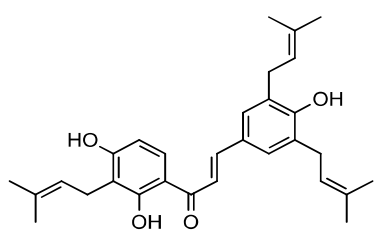


生薬サンズコンの成分研究

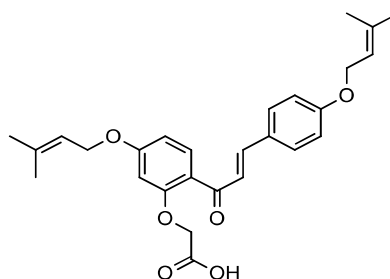
薬学部 化学系薬学 柏木翔和

生薬サンズコン（山豆根）はマメ科の *Sophora tonkinensis* の根および根茎を基原とする生薬である。古くから中国では清熱利咽、消炎などの効能があるとされ、咽頭炎や口内炎、咽頭腫瘍の治療に用いられており、日本薬局方外生薬規格にも収載されている。サンズコンの含有成分として、flavonoid 類や alkaloid 類が知られているが、その 1 つである sophoradin は胃粘膜保護作用を有する医薬品 sofalcone のリード化合物となっている。これらの背景から、サンズコンに含まれる生物活性物質の単離および構造決定を目的として、サンズコンの成分研究を行った。

サンズコン乾燥物（3 kg）を酢酸エチルで加熱還流し、抽出エキスを得た。得られた抽出エキスをシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、12 個のフラクションに分画した。それらのフラクションをシリカゲルカラムクロマトグラフィー、Sephadex LH-20 カラムクロマトグラフィーを用いて分離を繰り返し、精製を行った。単離された化合物はそれぞれ NMR スペクトルデータ、マスマスペクトルデータ、CD スペクトルデータ等を測定および解析し、構造決定を行った。その結果、新規化合物として flavonoid 6 種、benzofuran 誘導体 2 種の計 8 種、既知化合物として 33 種を単離し、構造決定および同定を行った。単離した化合物の構造や生物活性については、これまでに日本薬学会等で報告*している。今回、その一部の構造解析について紹介する。



sophoradin



sofalcone

*柏木ら、日本薬学会 第 140 年会（京都）2020 ほか